



BE

WORK GALLERY



31人の 生きる、働く。

働くLGBTQ+当事者の
“声”を集めた
ライフマガジン

自分らしく 働くって なんだろう？



インディード
indeed

無料 | ご自由にお持ちください

INDEX

自分らしく働かってなんだろう？

04 COVER STORY

キャリアチェンジして、自分らしく働く万太郎さんの生き方

10 RAINBOW INTERVIEW

#01 >>> #30

60 FROM Indeed — 私たちの『BE』第二弾発行に向けた想い

BE

生きる、働く。

PRODUCED : Indeed Japan

PLANNER : YUTARO SHIMIZU / YUKI SUGIMOTO / SHUNSUKE TAKANO

CREATIVE DIRECTION : SUNNYSIDEUP inc. / newTOKYO

CHIEF EDITOR : TAKASHI HAGA

SPECIAL EDITOR : KAZUE-CHAN / KAEDE SARI / SOSHI MATSUOKA

PR : YUSUKE NINOMIYA / HINA TAKAHASHI

DESIGN : newTOKYO

WRITER :

TAKASHI HAGA (8-9P / 12-15P / 19P / 22-25P / 27P / 30-33P / 35-41P / 44-47P / 50P)

HONOKA YAMASAKI (4-7P / 10-11P / 16-17P / 20-21P / 28-29P / 42P / 48-49P / 54-59P)

KOTETSU NAKAZATO (26P / 43P / 52-53P)

RINA AMAGAYA (18P / 34P / 51P)

PHOTOGRAPHER :

EISUKE (COVER / 8-9P / 12P / 14P / 22P / 32P / 38P / 40P / 44P)

YUSUKE ARAI (COVER / 10P / 24P / 30P / 36P / 46P / 58P)

KOTETSU NAKAZATO (COVER / 4-7P / 52P / 56P)

RINA AMAGAYA (16P / 20P / 28P / 48P / 54P)

PUBLISHER : Indeed Japan

PRINT : TAMAPRINT

© Indeed Japan 禁・無断転載

※「BE WORK GALLERY」に掲載されている企業名は2023年6月の在籍時点の情報となります。



仕事探しで一番大切にしていることは、感性と心を大切に働ける職場かどうか

大学在学中にワーキングホリデー制度を利用して留学したオーストラリアにて、カフェ店員として働いていたとき、職場のバリスタ達がマニュアル通りではなく、自分の心に従って働く姿が印象的で、飲食業界を目指すようになりました。帰国後も志望する業界は変わらず、新卒入社で都内のカフェで店長として働き始めたのですが、コロナウイルスの影響を受けて4年後にお店が閉店。そのタイミングで友人が弊社、Think FUTURE株式会社社長と引き合わせてくれたことが、この場所で働く大きなきっかけとなりました。

当時、弊社が運営する栃木県大田原市の観光牧場「NASU FARM VILLAGE（以下、ファーム）」を立ち上げたばかりで、新任するにあたり0から1を作り上げる仕事を多く任される環境であることを伝えられたのですが、私にとってはその環境が魅力的に思えて、前職とは全く異なる職種に期待を寄せつつ、2020年に東京都から栃木県へ引越しました。

このファームでは、かつて競走馬や競技馬として活躍していたものの、引退して殺処分される可能性がある馬を全国から保護する取り組みを行っており、その保護馬たちがお客様の乗馬体験や触れ合い体験などを担っています。その中でも私はファームで販売する商品の開発をはじめ、ECサイト及び牧場全体の運営、ブランドイメージの構築、SNSや動画共有サイトにアップロードする写真と動画の撮影、グッズのデザイン・発注、ポップアップの開催に至るまで、幅広く業務に携わっています。

保護馬をはじめ命をリスペクトしながら、クリエイティビティを発揮できる仕事へのやりがい

一日の仕事の流れとしては朝8時に出勤してからすぐ、公式SNSを更新する作業から始めて、その後はECサイトの顧客対応やグッズ制作を依頼している各協力会社へのメールの返信を行います。晴天の土日祝日限定でオープンする「Weekend Café」ではスタッフとしてファーム自家製ドリンクやソフトクリームの提供も行い、前職の経験を活かしています。最近では企業様からお声がけいただけることもあって、各地で月一回ほどの頻度でポップアップストアをオープンしているため、内装のデザイン決めや商品監修に携わることも多いです。今までに経験したことのない業務もたくさんありますが、新しい仕事を任せられるということは期待してもらっているということでもあるので、新しいことにチャレンジする気持ちを大切にしています。

また売り上げの一部をファームにいる馬たちの保護活動に充て、さらに多くの保護馬を全国から迎え入れられるよう、厩舎を立てる計画も進めています。ファームの活動や仕事内容に限らず、人間として生きるうえで全ての命へのリスペクトと感謝を持って生きたいと思っていますので、このような理念を当たり前を持つ仲間と日々、一緒に守りたいものを守りながら成長できる職場はありがたいです。

キャリアチェンジして、自分らしく働く万太郎さんの生き方



COVER STORY

自分らしさは必ずしも一人でつくり上げるものではなく、環境や周囲の人が大きく影響して形成されていくもの

原宿のカフェ店長から栃木県の観光牧場「NASU FARM VILLAGE」のクリエイティブディレクターへとキャリアチェンジした、万太郎さん。今の仕事と生き方から、“夢中になれる幸せ”をうかがった。

職業や肩書き、 セクシュアリティといったものの以前に、 個人のマインドが重要視される職場で 育まれる自己肯定感

牧場運営という全くもって未経験の領域に迎え入れてもらえた理由としては、パーソナリティを構成するうえで核となるマインドを重要視して判断してもらえたからであって、自分のセクシュアリティや年齢、肩書きなどあらゆる社会的なラベルイメージは関係ありませんでした。そのように人と接することは私自身も大切にしていることだったので、その点も転職・移住という大きな決断を後押しした理由かなと思います。

社員やお客様を通して、誰に対しても「個」として接するマインドを感じられる環境は、とても気持ち良いものですし、自分自身を認めて受け入れる自己肯定感を育むことにも繋がっています。人間関係を構築するうえで職業や肩書き以外の部分、例えば夢中になっていることや今後の夢、普段どんなことを思っていて、何が好きなのかを共有することが、相手を知ることや自分自身を知ってもらううえで最も大切なことではないでしょうか。

「らしく働けている」自分だけにできる方法で、 幸せを届けていきたい

ヘアスタイルやファッションなど外見的要素から「自分らしく働けている人」と思われる方もいらっしゃると思うのですが、「個」として接してくれる人が周りにいる環境に出会えたからこそ、今の自分があると思っています。今まで思ってもみなかったような仕事に就き、その仕事に夢中で携わっている自分を「万太郎らしいね」と応援してくれることが本当に嬉しいです。

自分らしさは必ずしも自分一人で作りに上げていくものではなく、環境や周囲の人が大きく影響して形成されていくものだ、ここに来て実感しているところです。今後も自分に良い影響を与えてくれる、この場所を大切に過ごしたいです。そのためには皆さんに喜んでもらえるような商品を開発したり、ファームを訪れた方たちと楽しくお話ししたりを通して、自分だけにできる方法で幸せを届けていきたいと思っています。



万太郎 さん

Think FUTURE株式会社

職業：「NASU FARM VILLAGE」クリ
エイティブディレクター
勤続年数：3年目
性自認：無回答
セクシュアリティ：無回答

Q. 仕事で活かしている長所は？

A. 素直さ。仕事で意見の食い違いが起きたときは、相手の話をしっかり聞き、自分の意見を伝えるようにしています。対話することで、より良いものができると信じているからです。

BE WORK GALLERY

—自分らしく働かってなんだろう？

自分らしく働こう。個人を尊重する多様性のある社会の実現が求められる中で、よく見聞きするようになった言葉です。しかし、大前提となる「自分らしさ」を一体どれだけの人が見出して働けているのか、そしてそれを実現できている職場がどれほど存在しているのか。データ上の数値として目に見えることはあっても、一人ひとりの「らしく働く」というストーリーを知る術はあまりありません。

そこで「BE WORK GALLERY」では、自分らしく働いている実感があると答えたLGBTQ+当事者31人にインタビュー。働くうえで一人ひとりが大切にしていることや職場の雰囲気、仕事やセクシュアリティに対する価値観まで31人31通りの働き方を知ることで、あなたがあなたの「自分らしさ」に気づききっかけとなりますように。

VINTAGE & SELECT SHOP
Chikashitsu +

自分らしく
働かって
なんだろう？

全ては困難を乗り越えた先に感じる、 何にも代えがたい達成感のために

2000年、映画製作に携わりたいとの想いで日本テレビに新卒入社しました。ただ、当時は興行収入における邦画のシェアが低い「洋高邦低」の時代。映画会社は製作より配給がメインと聞き、映画製作が盛んになる流れだったテレビ局へ就職したという経緯があります。現在はグローバルビジネス局映画事業部で映画プロデューサーを務めており、企画から資金集め、全体スケジュールの管理、宣伝、公開、二次利用に至るまで、実地的なスタジオ業務以外の映画製作の全工程に携わっています。映画プロデューサーという憧れの職業に就くまで約20年間という歳月を重ねた訳ですが、振り返ってみるとその20年間がなければ今の私にはなれていなかったとも思うんです。

そう思うに至ったのは、入社後すぐに配属された報道局外報部や報道局社会部での経験を経て、日本テレビカイロ支局長として5年間滞在了エジプトでの経験が大きく影響しています。現地ではテロや戦争を多く取材し、常に死を身近に感じる環境でした。そんな経験を重ねるうちに「人っていつ死んでもおかしくないんだ。それなら後悔なく自分の人生を生きたい」という思いが強まっていったんです。

カイロ支局には日テレの社員は私一人だけだったということもあり、幼少期から抱いていた「女性になりたい」という気持ちに従いファッションやメイクを普段から少しずつ試していくようになって。色々な意味で貴重な

5年でした。

その後、任期を終えて帰国した直後は周囲の目が気になり、女性として生きることに対して現実的にどう進めるのが良いか分からない状態だったのですが、翌年に起きた東日本大震災で再び死を身近な存在として実感したこと、2012年に念願だった映画に関わることができる編成局編成部の映画班への異動が実現し、直属の上司からも女性として生きることへの理解とサポートを得られたこともあり、私が思う私の姿で働いています。

映画プロデューサーは限られた時間の中で、作品のクオリティを最大限まで引き上げることが役割です。映画公開までは全方向にコミュニケーションを取り調整を重ねるといふ地道かつ困難な業務が続きますが、完成披露試写会などの華やかな場で作品がスポットライトを浴びる瞬間、私自身もその光の恩恵を受けているような気持ちになり、何にも代えがたい達成感で心が満たされます。入社してから23年間、一貫して何らかの形で「伝える」ことをしてきました。作品を通して世の中へ発信したメッセージが、誰かの感情を動かすきっかけになったり、ポジティブな反響をいただいたりするなど、この仕事でしか感じるこのことのできないやりがいを原動力として、これからも映画プロデューサーという仕事と向き合っていきたいです。

#01

谷生俊美 さん

日本テレビ放送網株式会社

職業：映画プロデューサー
勤続年数：24年目
性自認：女性
セクシュアリティ：
トランスジェンダー女性

Q.仕事で活かしている長所は？
A.ポジティブなところ。会話を通してチーム全体の雰囲気が明るくなったと実感する場面があるので、持ち前の人間性が周囲の方々に良い影響を与えられているのかなと思います。

「美味しい！」の声が原動力 お客様の心の拠り所にもなる居酒屋を目指しています

知り合いの紹介で焼き鳥をメインに提供する「音鶏家」高円寺店にアルバイトとして入社し、ホールや仕込み、調理と段階を踏みながら業務を覚えていく中で、焼き場での作業が楽しいなと思ったんです。当時はコロナ禍へ突入した真っ只中で、掛け持ちしていたアルバイト先の一つが閉店することも知らされていたので、社員として「音鶏家」に入社することを決めました。

高円寺店での勤務を経て2022年6月から大阪店店長を務めているのですが、お客様が求めているサービスを提供できるようにスタッフ全員が想像力を膨らませて動けることが、チームワークの良さに直結していると感じています。

従来の業務内容に加えてアルバイトや社員の育成といった店長業務も並行して行うため大変なこともあります。常連の方達含めお客様に良くしていただいているので毎日楽しく働いています。店先にある室外機をテーブルにして飲むお客様がいるほど忙しい日は、テンションが上がるとともに、充足感で心が満たされます。

また、一本目の焼き鳥を食べて「美味しい！」という声が聞けたときも、本当に嬉しいです。飲食業って美味しい料理を提供することは大前提ですが、心の拠り所のような役割も担っていると思っています。自分自身、プライベートに関する揉め事で心が疲れてしまったとき、通っていたお店に助けられた経験があ

るので、このお店を通して誰かの支えになれたらという気持ちもあるんです。

そうなれるよう気配りは特に意識していて、ご注文をいただくときの「すみません」の「す」も言わせない気持ちで、お声がけすることを大切にしています。それはお客様に限った話ではありません。スタッフも気持ちよく働けるように、一人ひとりがどのような働き方を理想としているのかヒアリングしたうえで、皆が適正な評価を受けられるよう環境を整えたり、ときにアドバイスしたりすることを心がけています。

そして「スタッフが気持ちよく働けるように」というのは、今はXジェンダーを自認している自分自身も含まれています。「音鶏家」以外のお店で働いていたときは、お客様から心がギュッとなるような発言を受けたこともありましたが、このオーナーに「今日彼女が泊まりに来るんですよ」とさっと話したときに「そうなんだ、いいねえ」と言ってくれて。前職以上にジェンダーを意識することなく働いています。対外的に性自認をオープンにした選択のおかげもあってSNSで自分のことや、お店のことを知ってくれたLGBTQ+コミュニティの方達が、今のお店に足を運んで下さることもあります。今後も、美味しい料理、雰囲気の良いを通して楽しい時間を提供していきたいです。

#02

水瀬 慧 さん

株式会社WESTAIN

職業：「音鶏家」心斎橋店 店長
勤続年数：4年目
性自認：Xジェンダー
セクシュアリティ：
パンセクシュアル

Q. 仕事で活かしている長所は？
A. 聞き上手なところ。歌舞伎町にあるミックスバーで働いていた経験を活かして、恋愛話から仕事の悩みまで聞くことが得意です。

オリジナルウェディングを通して、 「ふたりらしさ」を追求する存在であり続けたい

#03

柴田奈々子 さん

株式会社スベサン

職業：「HAKU」ウェディングプロデューサー 兼 ブランドマネージャー
 勤続年数：7年目
 性自認：無回答
 セクシュアリティ：無回答

Q 仕事で活かしている長所は？
 A 「GIVE」の精神があること。
 この仕事の根っこには「人の心を動かす」という本質的な価値があります。参列した全ての方の心が動くよう、最大限おふたりに向き合います。



前職はゲストハウスウェディング事業の大手企業でウェディングプランナーとして働いていました。雰囲気は良かったものの、会場やコンテンツに制限のある中でマニュアルに沿ったプランを提供することが、自分の持つスキルやアイデアを出し切れていない気がしていました。

転職を考えたのは入社3年目。当時、担当していたお客様に対して、納得のいく結婚式をご提供できなかったことが大きなきっかけになりました。ご新郎様から徐々に目が見えなくなる病気を患ったこととお聞きしたため、結婚式当日にお二人が歩く導線や物の配置を見直すべきと上司に掛け合ったのですが、「1日で複数組対応するゲストハウスウェディングのビジネスモデル上、思い描く全てのアイデアを叶えることは難しい」と却下されてしまっていました。

枠組みやルールを取り払い、お客様に100パーセント寄り添った結婚式を提供したいという気持ちを大切に働くために、その日の夜に転職先を探した結果、起業して間もない弊社を見つけました。オリジナルウェディングをプロデュースするブランド「HAKU」の事業内容が、私の考えにフィットしていると感じて、採用募集を行っていなかったものの問い合わせフォームから思いを伝えた結果、入社が決まりました。

働いてみると以前のようなマニュアルがなく、いかに狭い価値観の中で生きてきたかを実感しましたね。

元々、ジェンダーやセクシュアリティに対してフラットな考えを持っていたため、LGBTQ+当事者にも開かれたウェディングサービスを推進していきたいと社内に伝えたときも、共感してもらい、LGBTQ+について説明する時間も業務時間内で設けてもらいました。男女二元論が色濃く残るウェディング業界において、これほど個人の感性を発揮できる職場はないと思います。

3時間のヒアリングから始まり会場選び、当日の流れに至るまでルールがなく、一貫してお客様のウェディングをプロデュースすることに責任を感じながらも、裁量を持って働けることにやりがいと楽しさを見出しています。7年目となる今はウェディングプランナーと並行して、ブランドマネージャーとして「大切な人に想いを伝える」という、「HAKU」の価値観を拡充させる新規事業にも携わっています。

人の数だけ思い描く幸せの形は異なり、どのような装いをしたいかも人それぞれ。中でも弊社へ足を運んでくれる方の多くは特別なウェディングにしたいという想いが強い方だと思うので、自分のものさしで、人の考えや思いを判断しないことを大切にしています。良い意味でHAKUらしさではなく、ふたりらしさで溢れたウェディングを提供し、感動いただけたときが何より幸せです。



「自分を受け入れてくれそうか」よりも 「自分は何がしたいのか」を大切に

会社創業のタイミングで前職の先輩でもある代表から誘われて2022年11月に入社しました。現在は不動産営業・企画の業務に従事しています。お客様のお住まいの購入や、ご所有の不動産の売却をサポートするため、お一人おひとりのご要望を伺ったうえで、最適なご提案をする仕事です。

職場には代表を含め、私が新卒で入社した大手証券会社時代の知り合いが多くいます。前職からトランスジェンダー男性であることはオープンにして働いていましたし、当時からLGBTQ+の理解を深める研修などを共に受講していたこともあったため、転職がきっかけで特別視されてしまうということもなく、フラットな環境で働くことができています。

お客様と接する際は「信頼されること」を心がけています。お客様の心の底にあるご要望を汲み取ることが大切な仕事なので、信頼関係は必須です。そのため、私自身のジェンダーやセクシュアリティを疑問視されながらの商談は難しいと考えており、お客様から質問があればそれらについてお伝えすることも必要だと考えています。ただ、オープンにする、しないに関わらず、仕事を通してお客様の笑顔を見られたときは嬉しく、やりがいを感じる瞬間です。

今でこそ笑って働けていますが、最初から自分らしく働ける自信や基盤があったかという、必ずしもそうではありません。就職活動中だった2016年、女性としてスカートを着用し、髪の毛も一つにまとめて面接を受け続け

ていました。当時は「トランスジェンダーであることをオープンにしたら、採用に悪い影響を及ぼし兼ねない。女性の姿でいることが正当な評価を受ける第一歩」と思っていました。ただ、どうしてもメイクだけはできず、ときに面接官からノーメイクであることを指摘され、その場が重たい空気になったこともありました。一方で、メイクをしない自分を受け入れてくれる企業があったことも事実です。

トランスジェンダー当事者で就職・転職活動を行っている人の中には、自分が何をやりたいかではなく、「自分を受け入れてくれるかどうか」という軸で会社を探す人もいることでしょうか。それも自分らしく働くための選択肢ではあると思いますが、「自分は何がしたいのか、何ができるのか」などを考えることも同じくらい大切なことだと思っています。会社は多様な人が集まる場所であり、決して冷たい人ばかりではありません。人の温かさを感じながら、好きなことをして働ける人が増える社会に前進することを願っています。



#04

合田貴将 さん

株式会社
Ark Wealth Management

職業：不動産仲介業
勤続年数：7ヶ月目
性自認：男性
セクシュアリティ：
トランスジェンダー 男性

Q.仕事で活かしている長所は？

A.人と話すのが好きなど。お客様によって求めることは様々なので、一人ひとりの想いに寄り添うことを心がけています。お客様の喜ぶ姿を見ると、私も嬉しくなります。

皆が安心して頼れる介護士になるために、 公私ともに「相手への配慮」を大切に生きたい

現在、病院で介護士として働いており、患者さんの身体介護や食事の介助など多岐に渡る業務を担当しています。前職は空港で働いていたのですが、より人に寄り添うサービスを提供したいと思い、介護の道へ進みました。2022年11月に介護士に転身し、毎日楽しく仕事できています。職場でのカミングアウトについては、一部にはセクシュアリティをオープンにしていますが、全員にはお伝えしていません。なぜなら全員がLGBTQ+に関する理解があるとは限りませんし、入社してまだ半年しか経過していないため、もう少し時間をかけて距離を縮めたタイミングで伝えようと思っているからです。

実際、入社して間もない頃に「彼氏はいる

の？」「理想が高そう」などと同僚から言われたこともあり、どの人になら話せそうかを考えたうえでカミングアウトしようと決めています。現在は、4名の同僚に「女の子のパートナーがいます」と伝えています。それにより休憩時間が楽しくなったり、業務中のコミュニケーションが円滑に進む場面もあって、伝えて後悔したことはありません。

どんな職場で働いたとしても「自分らしくいる」というスタンスを貫くつもりですが、相手が私の言葉に耳を傾ける時間や心の余裕があるときにカミングアウトすることを意識しています。

仕事上では相手の気持ちに配慮することを心がけています。特に介護士においては求められる場面が多く、例えば言葉を発することが難しい患者さんに対しては、相手が求めていることをしっかり汲み取ることが大切です。

未経験からの挑戦で大変なことも多いですが、患者さんの状態に合わせてスムーズに介助できたときや、患者さんに「ありがとう」と言われたときはやりがいを感じます。「美知華さんには何でも言える」という安心感を持ってもらえるような介護士になるために、これからも自分らしくいる方法を模索しながら、公私ともに「相手への配慮」を大切に継続したいと思っています。

#05

美知華 さん

職業：介護士
勤続年数：6ヶ月目
性自認：女性
セクシュアリティ：
バイセクシュアル

Q.仕事で活かしている長所は？
A.相手に寄り添った言葉遣いができること。患者さんの気持ちを汲み取り、適切な言葉を選ぶように意識しています。患者さんにとって安心して頼れる介護士を目指します！

誰かの感動に繋がる物作りの一端を、 「刺繍」という技法で担えているとしたら嬉しい

希望していた縫製職としてではなく販売職として新卒入社したアパレルショップは、他社ブランドや古着を着用することが許されていたため、自分らしい服装で働くことができていました。ただ、入社して1年ほど経過したとき、全スタッフを対象に画一的なスタイリングが義務付けられ、それを機に転職活動をスタートしました。

働くうえで一番大切にしている「好きな服を着て仕事ができるか」という点に加え、針と糸を使った物作りに携わりたい気持ちが絶えることなく心にあり続けていたので、求人サイトで見つけた「刺繍職人」という文言には思わず目が留まりました。きっと、学生時代に刺繍の授業を受けた経験や、幼いときから黙々と作業することが好きだったことも影響しているかもしれません。募集要項をチェックして服装制限もなく成果が評価されやすい環境ということも魅力に感じ、採用面接を経て入社。今年で5年目になります。

クライアントから指定を受けた生地に対して最も適した刺繍技法を模索した後、PCソフトを用いてデータを作成、ご納得頂くまでサンプルをお出しし、量産依頼を請け負うまでが主な仕事の流れです。

名だたるファッションブランドのコレクションからアーティストの衣装製作まで幅広く依頼を受けており、自ら手掛けたものが誰かの感動や楽しいと思える空間作りの一端を担えていると考えるとやりがいを感じますね。同

時にクライアントにとっては売り上げを左右するものであり、財産になり得るものなので緊張感を持って丁寧に仕上げることを常に意識しています。

ゲイであることをオープンにせず生きることが自分らしいと感じるので、現在までにセクシュアリティをオープンにして働いた経験はありません。業務に直接必要がなく、プライベートに踏み込みすぎたようなコミュニケーションは避けるという考え方のもと、今の働き方を選んでいきます。必ずしも「オープンにすること＝自分らしく働く」ということではないのではと思っています。

#06

リョータ さん

職業：刺繍職人
勤続年数：5年目
性自認：男性
セクシュアリティ：ゲイ

Q.仕事で活かしている長所は？
A.資金源を意識して作業に臨めること。クライアントから頂戴した限られた予算で作らせてもらっているという心構えがあると、自然と丁寧に仕上げることができます。

人は性別以前に、個として向き合うもの 一人ひとりに合うトレーニングを提案したい

前職では理学療法士としてデイサービスセンターで働いていましたが、支援する立場でありながら身体の動かし方や仕組みについて不勉強であることを自覚し、スキルアップのためにピラティスインストラクター養成講座へ通い始めたことが、キャリアチェンジの一つのきっかけとなりました。

その後は働きながらスタジオへ通っていたものの、30代に入り健康的な身体づくりやパートナー・子どもとの時間を大切にしたいという意思が明確となり、2023年4月からフリーランスに転身しました。

現在は、スタジオ「Spine Conditioning Center」と業務委託契約を結び、ピラティストレーナーとして働いています。

実は元々、養成講座を受けていたスタジオなんです。トランスジェンダーであることをお伝えしたのは採用面接のときが初めてだったのですが、特に対応が変わるといこともなく、受講者として感じていた居心地の良さをトレーナーとなった今でも感じながら働けているのは幸せです。

このスタジオではパーソナルレッスンをメインに担当しています。お客様一人ひとりの悩みや目標をヒアリングしたうえで最適なトレーニングをご提案し、負担のかかる姿勢の改善やしなやかな身体づくりを手助けすることが主な仕事内容です。

受講生のときに先生から言われたように、お客様の生活背景や身体の癖を想像しながらパーツアプローチしていくことを大切にし

ているのですが、アドバイスが好転して効き目をより実感してくれた瞬間の笑顔やリアクションを目にできたときは、体の感覚を共有できている気がしていて嬉しくなります。

これまでに2回ほど転職活動を経験しており、いずれの転職先においてもトランスジェンダー男性であることを入社前にお伝えしていました。どの企業も制服は男性用と女性用どちらにするのが良いかなど、自認する性を優先してその都度対応してくれたため、居心地の良い環境で働くことができました。

就職活動を通して企業からの対応に違和感や不安を抱く出来事に直面する人も少なくないでしょうが、全てが自分の性別に原因があるとは思わないでほしいです。私自身、性別に頭を悩まされていたとき、同じトランスジェンダー男性の知人から「人は人として合うかどうかを見極めていると思うんだよ」という言葉をかけてもらったことが忘れられなくて。今まで私を私のまま受け入れてくれた企業との出会いが、その言葉の意味を教えてくださいました。スタートを切り始めたばかりですが、これからも性別以前に、私自身として接して下さる周りの方々を大切に、お客様一人ひとりの身体と丁寧に向き合えるピラティストレーナーとして成長していきたいです。

#07

多和田真希さん

Spine Conditioning Center

職業：ピラティストレーナー
勤続年数：2ヶ月目
性自認：男性
セクシュアリティ：
トランスジェンダー男性

Q.仕事で活かしている長所は？
A.人それぞれに合わせた接し方を心がけられるところ。自分とは違う考えや価値観を持つ人がいることは当たり前なので、「個」として接し一人ひとりに合わせたトレーニングを行うようにしています。

学生が夢に向かって集中して学べる場を 入学アドバイザーという立場から提供し続けたい

#08

サエさん

学校法人角川ドワンゴ学園

職業：入学広報部
勤続年数：4年目
性自認：女性
セクシュアリティ：
レズビアン

Q.仕事で活かしている長所は？
A.自己開示を意識して人と話せること。不安や悩みがある生徒の中には話を切り出すことが難しい方もいるので、自らを知ってもらおうえでも、明るく接するようにしています。

学生時代から教育業界に関心を持っていたため、大学卒業後は家庭教師派遣会社へ新卒入社しました。親御さんを含めた学生との三者面談を通して、家庭教師を引き合わせる業務に1年半携わっていく中、より学生一人ひとりと向き合う仕事がしたいという思いが芽生えました。それを機に、現在は高卒資格を取得するための必修授業をはじめ、プログラミングや投資、動画編集などの実践的な授業も行う角川ドワンゴ学園入学広報部内の入学アドバイザーとして働いています。

入職後は本校へのご入学を選択肢の一つとして考えている学生の皆様に対して、週日に個別の入学相談、週末にオープンキャンパスや学校説明会などを行っています。

また本校の魅力を伝えるだけでなく、入学にあたって学生の皆様が抱える不安や悩みを解消することも私の役割です。来校する生徒の中には通信制高校への転入学を普通ではないと捉え、ご不安に感じてしまう学生も少なくないのですが、そういった方に対しては「一度入学した高校が自分にとって適した環境ではない中、ここまで頑張れたのはすごいですね」「全日制高校に限らず、本校を選択肢として考えられる視野の広さもあなたの長所だと感じました」などポジティブな言葉でコミュニケーションをとることを心がけています。

学生の方々が面談を通して「これから何者にもなれる」と感じ、自らの可能性を見出してくれたら嬉しいですし、「学校選び」という

人生のターニングポイントに携われることにやりがいを感じています。また入学前に面談を担当した学生が入学後、以前より明るい表情をしていたり、他学生の前で自信を持ってプレゼンテーションを行っていたりと、学生たちの目覚ましい変化の瞬間に立ち会えることもこの仕事ならではのかなと思います。

自身の働き方という点においては、LGBTQ+について生徒が考えたり、知ることができる教育機会があったりすることに加え、学園が多様な個性を尊重する姿勢を表明していたことに背中を押され、初めて職場でセクシュアリティをオープンに働き始めました。セクシュアリティをオープンにした後も職員の方々がLGBTQ+当事者のことについて知る姿勢を崩さず、これまで通りに接してくれたことが嬉しかったです。

オープンにしたことで、在校生を含めジェンダーやセクシュアリティにまつわる悩みを持つ学生からの相談に対して、自身の経験を踏まえて対話できることも、学園に在籍している意義を感じられる瞬間の一つですね。これからも先んじて自身の経験などを自己開示する歩み寄りのコミュニケーションを大切にしながら、学生と向き合っていきます。

会社のエンジンとして、社員全員が 生き生きと働けるような職場づくりをしていきたい

ウェディングプランナーや営業を経て、5年前の上京を機にベンチャー×人事のキャリアをスタートさせました。IT教育や建設業のベンチャーを経験後、元々関心の高かった美容関連の業界で働きたいという気持ち、そしてこれまでの経験を活かしたいという気持ちを軸に転職先を探していたところ、トリコ株式会社に巡り合いました。自社ブランドやこの会社で働く人たち、そして「私らしい美しさで、私をもっと好きになる。」というコーポレートミッションに惹かれ、入社を決めました。

弊社では以前からLGBTQ+当事者の社員がセクシュアリティをオープンにして働いていることもあり、社内のジェンダーやセクシュアリティに関するリテラシーは高く保たれていると感じます。年齢・性別問わず活躍している人を評価する社風も相まって、ジェンダーという概念をそもそも気にしていない人が多いですね。多様性を当たり前を受け入れるマインドセットがあるというのは、誰もが自分らしく働ける環境づくりにおいて重要なことだと改めて思いました。

そんな会社だからこそ、人生で初めてセクシュアリティをオープンに働く選択をしていますが、以前よりも気を張らずに働けていると感じています。

また、ブロンドやピンクといった目立つヘアカラーの社員をはじめ、個性的なメンバーが多いですが、全てが自己表現として完結して

おり、他社員をジャッジしない社風が根付いているのも心地良く働けている理由の一つかもしれません。

仕事内容は人事総務を中心に、若手向けの研修の企画・実施も担当しているのですが、これまで経験してきたことを次世代へと還元していく使命を感じながら、日々楽しく業務に従事しています。その中でも、各世代で積み上げてきた経験や知識を共有することが、組織を継続するために必要なことであるという私なりの考えを大切にしています。また、採用担当者としては面接などの採用試験を経て弊社とマッチした新入社員を迎え入れることができたときは、達成感を感じますね。

人事総務の仕事は、裏方やサポートといったポジションではなく「会社のエンジン」だと思っています。守りの姿勢が大切な業務はその姿勢を崩さずに、そして自らの経験を活かせそうな業務内容であれば、攻めの姿勢を取り会社の成長に貢献していきたいです。

#09

柳生隆明 さん

トリコ株式会社

職業：人事総務マネージャー
勤続年数：2年目
性自認：男性
セクシュアリティ：ゲイ

Q.仕事で活かしている長所は？
A.世話好きなど。社員のためになると感じたことがあれば、できる限りのことは行動に移すようにしています。

仕事に楽しさを見出しながら、誰もが ジェンダー関係なく働きやすい職場を目指したい

1年半前、派遣会社を通して現在勤めている自動車工場に転職しました。私はこの仕事とは別の活動として、居住している地域の教育機関や行政、企業向けにLGBTQ+研修を行っており、その活動を軸に生活しています。そのため、以前の会社よりも休暇を取得しやすく社宅があること、かつ時給が高いことを条件に探した結果、現在の会社が候補として挙がりました。

ノンバイナリーを自認している私はジェンダーで分けられることに強い違和感を抱きます。派遣先となる候補企業の中には、面接の際に見た目や性自認に関して踏み込んだ質問をされることも多かったのですが、現在の勤め先ではそれらについて触れられることがなかったため、安心して働けると思い、雇用契約を結ぶことにしました。

#10

大沢千秋 さん

職業：自動車組立工
勤続年数：1年6ヶ月目
性自認：ノンバイナリー
セクシュアリティ：無回答

Q.仕事で活かしている長所は？
A.こだわり過ぎないところ。車好きな作業員が多く規定以上の見栄えを求める人もいますが、ラインを止めないために効率重視で動くことが会社全体のためになると思っています。

配属部署では自動車組み立てのライン作業に従事していて、流れてきた自動車のボディヘッドアやバンパーなどのパーツを取り付ける業務を行っています。自動車組立工という仕事が好きで人達と声を掛け合いながら協力して作業する楽しさは入社前には想像していませんでしたが、現在は同僚の人柄の良さを感じながら働いています。職場では自分の性のあり方をオープンに話すことはしていませんが、仲良くなるに連れてオープンに話をしたいと思える人も出てくると思うので、もしそういう人が現れたら話そうというスタンスで働いています。

部署内だけで約250人ほど従業員がいるのですが、女性の従業員は4人ほどと圧倒的少数派。そのため、必要な道具が高い位置に置かれていたり、重いものが持てることを前提に生産設計されていたりするなど、ジェンダーで働きやすさが左右されることが多い職場でした。そこで、何か気付きがあれば改善するよう率先して上司に提案するように行動していると、男性従業員だけでなく皆が働きやすい環境が整備されるようになりました。

何かに違和感を抱いたら話してみても良いし、職場全体は一度に変わらずとも自分の周囲から少しずつでも変えられたら、働きやすさは多少なりとも向上すると思っています。誰もがジェンダーに関係なく自分らしく働くことのできる職場環境をつくっていきたいです。

過去の経験からカミングアウトをしない。 今は、より自分らしく働くための勉強期間

高校卒業後に地元のウェブ制作会社でコーダーとして1年間働いた後、上京するタイミングで退職することに。東京ではフィットネストレーナーやレストランのキッチンなど様々な職種の経験を積むことで本当に就きたい職業を模索してきました。ただ、一身上の都合で地元へ戻らざるを得なくなり、2020年に一時的に市役所の事務職として働くことに。

強く希望する仕事ではなかったのですが、その代わりに今後のキャリアを考える時間が増えました。その結果、再びIT業界で働きたいという気持ちが明確になり、2022年4月からは派遣先である現在の会社で、勉強も兼ねてサーバ運用監視の仕事に従事しています。初めての夜勤で不安はありましたが、残業がなく座学の勉強時間を確保できること、また人間関係を構築するのが苦手な自分にとって、2人体制での勤務という点は魅力に感じた部分でした。

業務は数十台のモニターのある部屋で、各システムが正常に動作しているかをリアルタイムで監視することやエラーがあった場合に担当者へ速やかに共有すること、そしてサーバ本体に問題がないかサーバールームへ確認しに行くことの大きく分けて3つになります。

一つのミスやエラーが全体に障害をきたす場合もあるため、特にサーバ本体は入念にチェックするよう心がけています。この仕事に就いて1年経過しますが、一人で仕事を任せ

られることも多くなり、自分の成長を実感しています。また、今まで知らなかったソフトやツールの知識を蓄えられる環境も今後のキャリア形成に繋がっていると感じるため、そういった面からも自分らしく、そして誇りを持って働いています。

先輩との関係も良好ですが、ゲイであることを伝えるのには前向きになれません。それは以前フィットネスジムの同僚にゲイであることを伝えた後「アウトイングされたらどうしよう」と、自分自身の中で不安を募らせてしまい業務に集中できない経験をしたからです。今はシステムエンジニアになるためのキャリアを積むことを優先したいので、次のステップへ進むまでは今のスタイルで業務に従事していこうと思っています。

#11

ゆうせい さん

職業：サーバ運用監視
勤続年数：1年1ヶ月目
性自認：男性
セクシュアリティ：ゲイ

Q.仕事で活かしている長所は？
A.明るく話しやすい雰囲気や円滑なコミュニケーションを取れるところ。素直なところ。お互いに気持ち良く会話できたほうが業務も進めやすいと思うので心がけています。

理想的な働き方で新薬と患者を結ぶ架け橋として 社会貢献ができている今が楽しいです

弊社へ新卒入社した2020年から臨床開発モニターとして働いています。あまり聞いたことがない職業かと思いますが、治験がルールに沿って正しく行われているかの確認や、安全性と有効性を確かめたくて新薬をいち早く市場に出せるようサポートするなど、クライアントである製薬会社と病院の架け橋となる仕事です。大学在学中、海外で使用が認められている治療薬が国内では認可が下りず、使用できないケースが多い実態を知ったことが、医薬品開発支援の道に進むきっかけとなりました。

その後、日本医療が抱える課題解決の突破口として尽力したいと医薬品業界を軸とした就職活動を行い、中でも「多様性を重んじているか」は採用選考にエントリーするうえで重要視していた条件の一つでした。例を挙げるとするならば、LGBTQ+コミュニティへのサポート活動を行っているか、社員全員が平等な環境で働けているかといったところですね。希望する仕事だとしても、私自身が心地良く働くことができなければ元も子もないという思いから設けた基準でした。

ただ、内資企業の求人情報に目を通したときに、多様性に関する情報の記載が本当に少なく、外資企業へのエントリーも視野に入れ始めていた時期に、既に弊社で働いている友人から組織の雰囲気や取り組みなどを直接聞く機会があったんです。そのとき、働きたいと思える理想的な企業に巡り合えた気がし

て、新卒向けの採用選考を経て入社しました。

入社1年目にはSDGsを学ぶ研修や、CEOやCOOと話す機会が設けられたのですが、そういった場でもLGBTQ+コミュニティの話題に触れることが多く、中でも「LGBTQ+当事者を優遇するのではなく、平等な関係を築いていくことが大切である」という考えを聞いたことは嬉しかったですね。

今では経営陣の発言や考えが労働環境や雰囲気にもどれだけの影響をもたらすのか身をもって実感しています。セクシュアリティをオープンに働いて4年目ですが、同僚との会話で同性パートナーがいることを伝えても「そうなんだあ」ぐらいのリアクションですし、LGBTQ+当事者の社員が声を掛けてくれて知り合えることもいいなと思っています。

社会貢献したいという想いを持って選んだ職業なので、患者さんのカルテを見て病状が良くなっていることを知ったときは、自分が医薬品開発の一部に携わっていることの意義を感じることができます。現在は癌の領域を担当しており、今この瞬間も多くの患者さんが治療薬を必要としています。一日でも早く多くの人たちに治療薬を届けられるよう患者さんのことを考えながら、日々試行錯誤しながら業務に携わっていきたいです。



#12

上野由香利 さん

シミック株式会社

職業：臨床開発モニター
勤続年数：4年目
性自認：女性
セクシュアリティ：
レズビアン

Q.仕事で活かしている長所は？

A.丁寧に物事を伝えられるところ。はっきりとした意見は持ちつつも、どのような根拠があり、その結論に至ったのかをプロセスを踏まえて説明することを心がけています。

鏡を見て喜ぶお客様の姿を自信に繋げて、 ご満足いただける施術を提供し続けていきたい

高校卒業後は音楽の専門学校へ進学が決まっていたものの、挫折があって。フリーターをしながら男性ホルモン注射治療のために貯金する生活を1年間ほど送っていました。美容師の道へ進もうと思ったのは、男性美容師を取り上げる雑誌に掲載されていた方の姿がカッコ良く、一目で憧れたからです。

思えば中学生のときから、セルフカットを試みるほどヘアスタイルに関心が強かったので、向いてないことはないと思ったんです。また、美容師免許を取得すれば興味のある業界で一定の収入を得ながら働けると思い立ち、雑誌に載っていた美容師の方のプロフィール欄に出身校として記載されていた美容専門学校へ入学し、2年間基礎を学びました。

卒業後は先生の推薦で職場見学にも訪れていたEIZOへ入社。以来、この会社で美容師として働いています。入社したいと思った決め手は、スタッフの方達が笑顔で挨拶を返してくれたことです。職場見学でお邪魔させていただいていた美容学生の身としては、その対応がすごく嬉しかったんです。

採用面談のときには、すでに男性ホルモン注射治療を受け始めていたので、トランスジェンダー男性であることをオーナーへ伝えると、驚きつつも、スタッフ全員が働きやすい職場づくりのために尽力してくれて。ジェンダーに対して理解のある企業文化もあり、私含めスタッフが仕事に専念できる環境が整備

されていると思います。

美容院の予約ページでは、3年前からトランスジェンダー男性であることをオープンにしている、LGBTQ+コミュニティのお客様にご来店いただけることも多くなりました。美容業界では「ボーイッシュ」「フェミニン」といった言葉一つ取っても、ジェンダーと結び付きの強い言葉が用いられる場面が多いと思います。しかし、配慮からそれらの言葉を使用しないと決めつけるのではなく、お客様が使用したら使用するというコミュニケーションの形で、理想のヘアスタイルを作り上げていくことを心がけています。

やはり、施術を終えたお客様にご満足いただけるときにやりがいを感じますし、自信に繋がる成功体験を積み重ねられたような感覚を覚えます。また、友人の結婚式前にスタイリングやカットを任せてもらえることも何度か経験したのですが、大切な人の大切な瞬間に関われることも美容師ならではの醍醐味だと思います。

高校生の頃に思い描いていた将来像とは異なるキャリアを積んで11年目になりますが、自ら選んだ職業に誇りを持ち、向き合ってきたからこそその11年間でもあると感じています。今の自分と未来の自分を繋ぐ軸となるものを意識することが、理想の働き方を見出す第一歩になるのではないのでしょうか。

#13 (画像中央)

宮島瑠 さん

EIZO GINZA

職業：美容師
勤続年数：11年目
性自認：男性
セクシュアリティ：
トランスジェンダー 男性

Q.仕事で活かしている長所は？
A.答えやすい質問の仕方や決めつけのない言葉選びができること。初対面のお客様であったとしても、リラックスした状態で施術を受けていただけるよう心がけています。

マネージャーとしてスタッフの個性が 最大限活かされるショップにしていきたい

大学で経営学を学びながらアパレル業界への就職を目指し、弊社が運営しているアパレルショップで販売スタッフのアルバイトとして働いていたのですが、就職活動のタイミングで「お店を立ち上げるから、マネージャーをお願いしたい」と話があり、引き受けたことが入社のかっけです。

大手企業への就職も考えましたが、キャリアアップに時間を要したり裁量権が小さかったりするイメージが拭えなかったため、今後3年間のキャリアを見据えて、「Chikashitsu+」マネージャーという任せられる裁量が大きいポジションが魅力的だった弊社で働くことにしました。

アルバイトスタッフのときから社長や社員の方々が、ありのままの私を受け入れてくれている雰囲気もあったので、その点も安心して入社を決められた理由の一つですね。並行してアルバイトスタッフとして働いていた個人経営の居酒屋店長には、私の言葉遣いなどに対してあからさまに嫌な態度を示された経験があったので、またそういう経験をするリスクを少しでも避けたかったんです。

右も左も分からず、自らの未熟さゆえに心が押しつぶされて辞めたいと考えたことは何度もありましたが、3年目にして韓国発ブランドを中心に取り扱うというブランドコンセプトを作りあげられたり、全ての業務を1人で円滑に行うことができるようになったりしたことが自信に繋がり、感性を最大限に活かし

て楽しく働けています。今ではバイイングをはじめ、接客やSNS運営など経理面を除いたお店づくりの全てを担当しています。

中でもバイイングはお店の根幹に関わる業務の一つですが、私の主観だけではなく次世代のスタッフの意見も尊重しながら、アイテムを仕入れるか否かを決めています。バイイングに興味があるスタッフが多いので、実際に自身の意見で仕入れたものが売れたときの達成感を感じてもらったり、逆に売れなかったときの理由や対応策を自ら考えてもらうなど、トライアンドエラーの機会をスタッフへ与える意味でも大切にしています。スタッフ一人ひとりがモチベーションを保ちながら自分の色を最大限発揮して働けるよう、各々に適した向き合い方で接することにも努めています。

大学生時代からストレート、バイセクシュアル、そして現在自認しているノンバイナリーと性のあり方が移り変わっていく中でも、お店に足を運んでいただき応援し続けてくれるお客様がたくさんいるんです。セクシュアリティやジェンダーをコンプレックスに感じず働けているのは、そんなお客様からいただく言葉も強く影響しています。同僚だけでなくお客様からの愛情を受け取りながら働ける環境への感謝を忘れず、このお店を守り続けていきたいです。

#14

GIRO さん

株式会社Pressing

職業：「Chikashitsu+」ディレクター
 勤続年数：9年目
 性自認：無回答
 セクシュアリティ：無回答

Q. 仕事で活かしている長所は？
 A. 夢を口に出して伝えられるところ。主要都市でポップアップストアをオープンする目標を叶えられたのも、担当者へ思いを全て伝えることができたからだと思っています。

あらゆるマイノリティの方々が本来持っている 能力を発揮できるような環境をつくりたい

大手企業の人事部にてダイバーシティ&インクルージョン（以下、D&I）推進担当者として、LGBTQ+や障害に関する研修及び社内イベントの企画・運営などに携わっています。弊社へ入社しようと思った大きな理由としては、D&I推進を主とした業務に携われること、そして採用選考時に経営課題としてD&Iに取り組む姿勢が感じられたからです。業務内容は幅広く難しさもありますが、LGBTQ+当事者や障害のある方の支援を経験したことで培った知識や人脈を存分に活かせる環境であると同時に、やりがいを感じられる瞬間に数多く立ち会えそうなポジションでもあるので、これからが楽しみです。

職場ではLGBTQ+当事者としての立場からで

はなく、専門性のある個人として、そしてD&I推進担当者として、目では見えづらいLGBTQ+当事者や障害のある方をはじめ様々な属性の方がいること、そしてあらゆる考え方の人がいることを前提としたコミュニケーションや社内発信を心がけています。

セクシュアリティをオープンにしない理由としては、社員数の多さゆえにLGBTQ+に関する知識レベルや捉え方のグラデーションの幅が広いことが推測され、場合によっては「LGBTQ+当事者」であることによるバイアスをかけられてしまい、業務や心身に支障をきたす可能性があると考えているためです。

ただ、D&I推進担当者として発信を継続し、組織のLGBTQ+に関する知識の定着・ダイバーシティに対して理解のある風土の醸成が進めばセクシュアリティをオープンにして働く可能性もあると思っています。

私は、あらゆるマイノリティが本来持っているポテンシャルを発揮できる社会の土台作りに貢献したいと真剣に考えています。その第一歩として企業のD&I推進担当者である私が課題と向き合い、組織を変革する力を身に着けようとしています。現在は、LGBTQ+に関するイベント企画やハンドブックの制作および配布にも着手しているところです。LGBTQ+当事者に限らず、様々な意見を取り入れ、企業や社会を変えていくことに本気で取り組んでいきたいです。

#15

まつり さん

職業：人事部内ダイバーシティ推進担当
勤続年数：4ヶ月目
性自認：無回答
セクシュアリティ：無回答

Q.仕事で活かしている長所は？
A.好奇心と責任感です。相手を理解しようとする気持ちから得られる気づきは重要です。得た情報に責任を持ち業務に生かすことを意識しながら、日々仕事に取り組んでいます。

デザインした自動車が走っているのを見たとき、 何にも代えがたいやりがいを感じます

前職で4年間同じチームでプロジェクトを遂行していた元上司から、ヘッドハンティングを受けて弊社へ入社しました。以前と変わらずカーデザイナーとしての採用だったため、業務内容が一切変わらないこと、また立ち上げたばかりの部署ということもあり、これまで培ってきたノウハウを活かして経験の浅い若手社員の育成にも携わされることに魅力を感じました。というのも、前職では固定観念に捉われた傾向のあるベテラン社員が多く、若手社員のアイデアを聞き入れてもらうことが難しかったため、新しいことへのチャレンジができなかったんです。その点、弊社の「人を育てながら事業を拡大していく」というミッションに、夢とやりがいを見出せそうと感じ転職を決めました。

現在も前職と同様、デザイナーが描いた新車のファーストスケッチを専門ソフトを用いて3D化することが主な仕事です。外装はもちろんシート、ハンドル、ダッシュボードに至るまで目に見える全ての部分をデザインへ起こした後、素材決めや各所からのフィードバックを反映させて完成版へと仕上げていきます。

プロジェクトを成功へと導くためには、法規に準じた自動車であることは大前提として、デザイナーの意図を汲み取り忠実に再現することが何より求められます。そのため私自身は、ある種デザイナーの影分身のような立ち位置を意識することを心がけています。

携わった新車が世へ出回るの、プロジェクト

がスタートしてから3~4年後なのですが、街中で自分がデザインした自動車が走っているのを目の当たりにした瞬間は、最高にやりがいを感じますね。幼少期から乗り物が大好きで、中学生から目指していた職業に就けている現在のキャリアには満足しています。

弊社は女性や外国籍など様々なバックグラウンドを持った社員も多く在籍しているためダイバーシティのある企業だと言えますが、性的マイノリティに向けた制度がないことに加え、セクシュアリティを理由に働きづらいつと感じたことがなく、カミングアウトしても働き方に変化があるとは思わないため、オープンにしています。ただ、絶対に知られたくない訳ではないので同僚に知られたときは、そのときどうするか考えようかなと思っています。

#16

Ryu 太郎 さん

職業：カーデザイナー
勤続年数：1年3ヶ月目
性自認：無回答
セクシュアリティ：無回答

Q.仕事で活かしている長所は？
A.自動車が好きなところ。公私ともに自動車漬けの毎日なので、プライベートでインプットした知識や情報を活かしたアイデアを仕事の場で提案できることが強みだと思います。

オーダースーツを通して、お客様の「自分らしい」を見つけるお手伝いをしていきたい

「女性体型に合うメンズパターンのオーダースーツ」という『keuzes』のキャッチコピーに心奪われファンとなったことが、弊社へ入社する最初のきっかけです。私もスーツをオーダーしたのですが、担当者が弊社代表・田中でした。肩の力が抜けた雰囲気や言葉選びが印象的で、購入後も情報を追っていたところ、スタッフ募集の投稿が目にとまりました。

当時、私が勤めていた会社では、決裁権を持つ上司がほとんど男性社員である一方で女性社員が極端に少なく、“女性”というだけで特別扱いされているように感じるときがありました。男性社員であれば厳しく指導されることでも、女性社員であれば「仕方ないなあ」で済まされる雰囲気といいますか…。

普段はチームに恵まれ伸び伸びと楽しく働いていましたが、ときに厳しい場面では業務を円滑に進めるためにあえて「愛嬌のある女性社員」を演じて切り抜けようとする自分がいることにも気付いていたんです。求人を目にして以来、もっと自分らしく働けるチャンスがあるならチャレンジしてみようという思いが募った結果、現在はテラーという全く異なる職業を手にして働いています。

実店舗を持たないのでオーダーが入り次第、お客様のもとへ伺います。ボタンや生地、裏地、シルエットなどをお選びいただき、約8週間後に郵送する形で、自分らしさを表現で

きるスーツ作りのお手伝いをしています。数万種類という多岐に渡る組み合わせが可能のため、お客様が迷ってしまうことも少なくないのですが、私からのご提案に納得いただき表情が明るくなる瞬間を目の当たりにすると、何にも代えがたい嬉しさがありますね。これまで約50名のお客様を担当してきましたが、良い意味でノンバイナリーであることを意識せずに働いています。お客様にもジェンダーやセクシュアリティ関係なく、スーツを自由にオーダーできる場所を魅力の一つとして感じていただけているのだと思います。

中には就職活動を見据えてオーダーをいただく方も多いです。その際、人からの評価を受ける場所だからこそ「女性がメンズパターンのスーツを着てもいいのでしょうか？」といった不安混じりの質問も度々お受けします。

世の中の就職活動における現状を考えると、そういった気持ちを抱いてしまうこともあると思います。ただ、私からお伝えするのはそれがメンズでもレディースでもフォーマルな場での装いであることには違いないということです。そのことを胸に自信を持って着てくれたら嬉しいです、「装い」という点からあらゆるお客様の人生を後押しできればと思っています。

#17 大花ちなみさん

株式会社クーゼス

職業：テラー
勤続年数：6ヶ月目
性自認：無回答
セクシュアリティ：無回答

Q. 仕事で活かしている長所は？
A. お客様のベースを第一に考えられるところ。大切な瞬間に着用するお客様が多いので、心から納得した商品、タイミングでスーツ作りのお手伝いができるよう心がけています。

作品を通してLGBTQ+コミュニティの可視化ができていることが大きなやりがいです

スタイリスト・衣装デザイナーのパトリシア・フィールドのもとでニューヨークを拠点に働いていたのですが、2014年、日本に住む母の病状が悪くなったことを機に帰国しました。間もなくして母が亡くなり、これからどう生きていくのかを考えるため、しばらく日本に滞在することに。

ここで働くことに至った経緯としては滞在中、パトリシアからの連絡を受けて取引先でもあった中村キース・ヘリング美術館を訪れた際に、館長の中村から「ディレクターとして働きませんか？」と声をかけられたことが大きく影響しています。

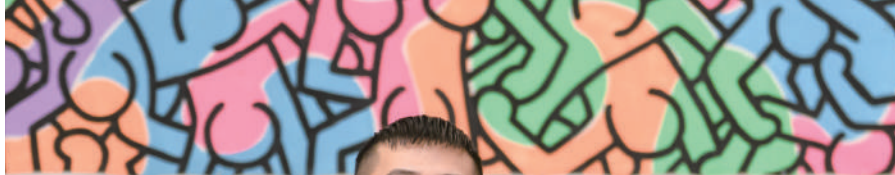
戸惑いはなく、ラッキーという気持ちが強かったですね。10代からアメリカで働いていたので、日本人でありながら日本についてよく知らないことをコンプレックスに感じる場面が多くて。日本で働けば、その点は解消されていくでしょうし、ありがたいお話だなと思いました。最終的にはパトリシアにも後押しされ、お引き受けすることに決めました。

弊館は方針上、LGBTQ+コミュニティや女性、子ども、地球環境など社会が直面する課題をアートを通して発信することが多いです。そういった期間展や巡回展などの企画を進めていくうえで、それぞれのスタッフが抱えているタスクのサポートであったり、新プロジェクト発案者の提案を整理・共有したりする進行管理が主な仕事です。また、翻訳や

ウォールテキストといった文字周りの監修やクリエイティブディレクションも担当しています。中村キース・ヘリング美術館のディレクターという肩書きではありますが、学芸員をはじめスタッフのアシスタントという気持ちで働いていますね。

LGBTQ+コミュニティやHIVポジティブの方々へ向け、キース・ヘリング作品や弊館主催プロジェクトを通して社会貢献に繋がるメッセージの発信ができていることに、ゲイ当事者としても大きなやりがいを感じています。キース・ヘリング自身がオープンリーゲイ当事者であること、また館長の中村がLGBTQ+コミュニティと真摯に向き合い続けていることもあり、マイノリティであることが働きづらさに繋がることはありません。また持続可能な働き方を実現するために、スティグマやメンタルヘルスに関する情報をグループチャットで各自共有することが習慣づいており、日々知識がアップデートされる環境も働きやすさを作る根幹を担っていると思います。

ファッション業界で働いていたときはゲイアイコン、ニューヨークアイコンといった視点でしかキース・ヘリングの作品を捉えられていませんでしたが、現在は作品に込められた意味や彼の生涯に深みを感じつつ、1人のファンとしてここで働けていることが幸せです。



#18

Hiraku さん

株式会社アルテミス

職業：「中村キース・ヘリング美術館」ディレクター
 勤続年数：10年目
 性自認：
 男性、ノンバイナリー
 セクシュアリティ：ゲイ

Q.仕事で活かしている長所は？
 A.ゲイであることを誇りに持っているところ。セクシュアリティをオープンにしているからこそ、業務を遂行するうえで当事者性が強みになる場面が多いと感じているからです。

All Keith Haring artworks
 ©Keith Haring Foundation, Courtesy of Nakamura Keith Haring Collection

遺品整理という作業を感動に変える それが私の本質的な役割だと思っています

#19

牛場真由 さん

大橋運輸株式会社

職業：遺品整理士
勤続年数：4年目
性自認：女性
セクシュアリティ：
パンセクシュアル

Q.仕事で活かしている長所は？
A.力仕事が多い現場作業なので、今までの職歴で培ってきた足腰の強さを活かしています。感情移入しすぎないように気持ちにブレーキをかけられるところも役立っています。



高校生のときから接客業や体を動かす派遣のアルバイトが好きで経験も深かったので、大学卒業後は居酒屋を運営する企業へ店舗社員として新卒入社しました。業務自体はやりがいがあって向いていると思ったのですが、立ち仕事が多く忙しい職場ということもあり、30代を目前にして新しい働き方をしたいと思うようになりました。当時から現在まで生活を共にしているパートナーがいるのですが、すれ違いの生活になってしまっていたことも一つの要因でしたね。

転職候補として遺品整理士が挙がったのは、社会人になって間もなく祖父が亡くなってしまった際にお世話になった、葬祭業の方々の仕事ぶりが大きく影響しています。仕来りを大切にす家柄だったため、長い時間をかけて葬儀を執り行ったのですが、担当して下さった葬儀社の方々が丁寧な対応を下さったんです。そのことが印象深く残っていて葬祭業で職探しをしていたところ、この仕事と出会いました。また、少子化・超高齢社会が進む日本で、今後需要が高まり長く働ける職業でもあったんです。

遺品整理士の仕事が大変であることを理解したうえで、それでもやってみないと分からないと思い立ち、大橋運輸株式会社へ入社しました。弊社ではLGBTQ+当事者に対する労働環境の整備含め、ダイバーシティ経営を積極的に推進しているため、その点も自分自身の希望と合致していると感じました。トラック

を運転する頻度が高いので、万一、怪我や事故に巻き込まれた場合の緊急連絡先として、同性パートナーの連絡先を登録できることは非常に助かっています。

遺品整理をはじめ生前整理、空き家の整理が主な業務で、ご依頼主さまの意向に沿って整理をしていきます。完全にお任せという方もいれば一つひとつ見ながら残すか手放すか判断する方もいて、人それぞれですね。手放す物を弊社が引き取り、終了という流れとなっています。

故人や物に思い入れがあるからこそ、第三者にお願いしたいという気持ちもあると思うので、ご遺族の方の想いを尊重し一定の距離を保つことも大切にしています。遺品整理の現場においては、家族の大切な物に触れることになるので、最初はご遺族の方に不安に思われることもあります。だからこそ、その大切な物を通して少しずつ打ち解けあいながら作業を進め、最終的に「本当にありがとうございます」と感謝の言葉をいただいたときに、遺品整理士としてやりがいを感じる瞬間です。

やりがいもあり、希望の時間内に業務を終えられる今の働き方が、私が思い描いていた私らしい働き方です。また、趣味応援企画などの福利厚生も利用しながら、仕事もプライベートも充実した日々が送れています。

毎日100人に想いも届ける仕事 人のためになる配達員でありたい

前職は骨董品の営業でしたが、モチベーションを保てなくなり、2022年8月に配達員へ転職しました。朝は荷物の仕分けと積み込みから始まり、日によっては夜まで配達しています。

配達業は単純作業だと思われがちですが、お客様の希望する配達時間や他の荷物の配達先を考慮したうえで、いかに効率よく荷物を運ぶことができるかが問われる仕事です。完全歩合制のため、自分が考えたルートで多くの荷物を配達できたときの達成感は大きいです。

配達是一人ですが職場に戻ればほかの配達員がいるため楽しく話をするものの、トランスジェンダー男性であることは一人を除いて伝えていません。なぜなら、セクシュアリティをオープンにすることが、仕事や人間関係に

必ずしも良い影響を与えるとは限らないと思うからです。改名以前、自分がどう見られているか気にしてしまうことが多々あったことから、再び性別を気にして働くのは避けたくて。カミングアウトにより関係性が変わってしまう恐怖心も抱えているため、今の働き方を選んでいきます。

唯一、自身のセクシュアリティについて話している方は女性従業員なのですが、トランスジェンダー男性と交際経験があることをお話ししてくれたので、伝えました。配達員の多くが男性である職場なので、LGBTQ+コミュニティという共通項がその方の働きやすさに繋がればという気持ちもありましたね。

「人のためになりたい」という気持ちは、業務をするにあたって持っている気持ちとも共通しています。毎日約100名のお客様に配達する中で、重たい物をお渡しするときは「気をつけてください」と一言添えるなど、思いやりを持ち行動することを意識しています。自分の行動がお客様の助けとなったり、「ありがとうございます」といった感謝の言葉に繋がったりすると嬉しいです。

カミングアウトや働き方に「こうあるべき」という正解はないので、自分の生き方に合った選択をしていけば良いのではないのでしょうか。これからも人のために行動するという信念を忘れずに生きていきたいです。

#20

陸 さん

職業：配達業
勤続年数：1年目
性自認：無回答
セクシュアリティ：
トランスジェンダー男性

Q.仕事で活かしている長所は？
A.フレンドリーなところ。普段から笑顔で明るく過ごしている点は、お客様と関わる頻度が高い配達業で活かされていると感じます。

培った職務経験とレズビアン当事者の視点から 少数意見にも耳を傾ける職場を目指したい

勤めている企業では品質管理をしています。知名度のある会社だったので「安心して働けそう」という理由で新卒入社して以来、16年目になります。入社して間もない頃は、ただ言われた業務をこなすことしかできない日々が続きました。また会社の9割が男性ということもあり女性特有の悩みを相談できる環境が整備されておらず、女性というだけで平等な立場に立たせてもらえない雰囲気も居心地が良いとは言えなかったため、4年目ぐらいまで不安を抱えることが多かったです。

そういった環境の中でも分からないことは積極的に聞くというスタンスを崩さず働いていると、他社員も丁寧な対応をしてくれるようになりました。私の行動が影響しているのかは定かではありませんが、今では社員の仲も良く先輩後輩関係なく分からないことを気軽に聞ける雰囲気があり、働きやすさを感じられる職場ではあるのかなと思っています。

業務内容としては製造された商品に微生物が混入していないかの確認やお客様からいただいたご意見の調査、従業員の教育指導などを行っています。16年間で培ってきた経験や知識から、自分で考えて動けるようになり裁量も増えました。「教わる立場」から「教える立場」にある今は、蓄えてきた知識やスキルを後輩に伝えたり、会社をより良い労働環境にするために勉強したりすることにもやりがいを感じています。

その一環として誰もが働きやすい職場を目指

し、レズビアンという立場ではなくアライという立場から、LGBTQ+やフェミニズムの講習会を会社として受けようと提案したこともあるのですが、結果的に実現には至りませんでした。少数者へ意識が向かない点は少し残念だと感じています。

そういった環境であるため、ほかの従業員との関係性や、近くに住む両親のことを思う気持ちから、今はレズビアンであることをオープンに働く選択はしていません。セクシュアリティをオープンにせず働いている私ができることは、相手のセクシュアリティを断定しないコミュニケーションを取り続けることや、後輩たちが先輩に対して言いづらいことを代わりに伝えていくことかなと思っています。それも含めて自らの役割だと思っています。

#21

あい さん

職業：食品メーカーの品質管理
勤続年数：16年目
性自認：女性
セクシュアリティ：
レズビアン

Q.仕事で活かしている長所は？
A.文章作成や業務のデジタル化など皆が効率良く働けるよう、積極的に動けることは役立っていると思います。

ジェンダーに捉われない社会に向けて 新しさを提供するメンズコスメを開発し続ける

#22

福田一道 さん

株式会社
G.Oホールディングス

職業：「NULL」企画・開発
勤続年数：4年目
性自認：男性
セクシュアリティ：ゲイ

Q.仕事で活かしている長所は？
A.美容への探究心と知識が豊富
なところ。新しい情報をキャッ
チするためにアンテナを張って
生活する習慣が身につけている
ことは、プロダクトの開発に大
いに役立っています。

美容室や飲食店で培ったスキルを活かして、より社会貢献できる仕事に就きたいと思ったのですが、当時はPCスキルや渉外についての知識がなかったので、ビジネススキルを学ぶ意味で医薬品の売買システムを提供する会社に1年半、営業職として勤めました。

新規開拓やクレーム対応などを通して顧客との契約に向けた基本的な営業ノウハウを学べる環境は良かったのですが、接待などの場面でゲイである私にとって居心地が悪く感じることが度々あり、自身の成長を感じられたタイミングで転職を考えるようになりました。

「自分の経験を活かしつつ社会貢献ができる仕事」。そう考えたときに化粧品業界が思い浮かび求人を探していると、日本初の男性用BBクリームを発売した弊社の募集に目が留まりました。メンズコスメという新しい市場を開拓する挑戦心に感銘を受け、東京から大阪へ向かい社長面接を経て入社しました。

現在はコスメ事業部にてメンズコスメブランド「NULL」の企画・開発に従事しており、香りや成分の配合など商品開発からブランドコンセプトの構築、商品撮影のディレクションまで全工程に携わっています。誰も目にしたことがない商品を開発し多くの人に届けたいという気持ちがあるので、街を歩いているときに感じた香りや目にした人など、生活の中で受けたインスピレーションを忘れないよう

メモすることを心がけています。

今年で4年目になりますが、商品をお使いただけのご報告いただいたり、通販サイトで好意的なコメントを目にしたりすると、人のためになる仕事ができていると実感します。また「NULL」として東京レインボープライドへ出展し、自分のバックグラウンドや実体験を活かして社会貢献をするという個人的な目標も達成することができました。過去に「男性であることを気にして、メイクができない」というメッセージが届いたこともあり、そういった方々へ男性用化粧品があることを発信できたことが嬉しかったです。またブランドを通してアライの姿勢を伝えることもできていると感じています。

職場では東京レインボープライドへの出展を提案した際に「自身のセクシュアリティが会社にメリットをもたらす場合があるならば、オープンに働きたい」とゲイであることを社長にお伝えしました。それから徐々に他社員へ伝える必要性があれば伝えていたのですが、誰からもネガティブな反応をされことなく現在まで働いています。最近では男性向け雑誌でもメイク特集が生まれ、メンズメイクがスタンダードになりつつあります。ジェンダーに捉われない社会の実現のためにも、自分の個性や強みを最大限発揮していきたいです。

お客様が思い描く理想の2人暮らしを提供することに心血を注げることが幸せです

大学卒業後は引越会社と専門商社で営業職を経験しました。当時はトランスジェンダー女性であることを会社には伝えていなかったため、メンズスーツを着用したうえで指摘されない程度の長さの髪型で働いていました。仕事では男性として、プライベートでは女性として生きる生活を長く続けていたのですが「自分を押し込め込むことなく働ける職場があるのでは？」と転職活動を始めました。それから約1年間探し続けた末、同性カップルの同棲物件を数多く仲介してきた株式会社IRISを見つけました。

不動産業界は未経験でしたが経験を問わない募集条件かつ求めるスキルとして営業経験が挙げられていたこと、またLGBTQ+当事者が直面する「住まい」に関する社会課題解決に向けた事業を展開するソーシャルベンチャーであったことが、私自身の経験や見据えるキャリアにマッチしていると思い応募しました。

弊社代表との採用面接は楽しい思い出として残っています。セクシュアリティについてや仕事に対する思い、職務経験など会話のキャッチボールができていた感覚がありました。同じタイミングで受けた他企業の面接はぎこちなさを感じる場面が多くて。履歴書に記載された性別と姓名、添付した写真が合わないことへの戸惑いからくるものだと思うのですが、そういった空気での面接は円滑なコミュニケーションが取れないことが多かったです。

入社が決まってからは通称名で働くことや性別適合手術における休職手当制度の整備など、社員に寄り添った対応を受けることができています。結果的に、セクシュアリティやジェンダーについてではなく、自分が担う仕事について考え、悩める職場で働けていることが嬉しいです。

主な仕事は同性カップルの方達と同棲可能かつ素敵な物件を引き合わせることです。事前交渉で同性パートナー同士での入居を希望していることをお伝えするケースもあるのですが、管理会社から「同性カップルは気持ちが悪い」などという直接的な言葉を受けて断られることも少なくありません。ただ、お客様がそうした言葉に傷つかないための防波堤として私たちがいると思っているので、あまり苦に感じたことはなく、挫けず理想にあった物件を探し続けます。そこは営業のフィールドで培った負けん気の強さが役立っているかなと思いますね。

お客様が入居する物件が決まったときに「齋藤さんをお願いしてよかった！ありがとう」と言ってもらえることが、一番のやりがいです。お部屋探しは同性カップルにとって悩みの種になることが多いと思いますが、全てのお客様が素敵な新生活を描けるよう不動産仲介という役割を通してお手伝いできればと思っています。



#23

齋藤亜美さん

株式会社IRIS

職業：不動産仲介業
 勤続年数：4年目
 性自認：無回答
 セクシュアリティ：無回答

Q.仕事で活かしている長所は？
 A.負けん気が強いところ。管理会社との交渉が難航することも多いですが、営業職で培ったタフな精神力でお客様と素敵な物件を繋げられるようやり抜くことを大切にしています。

多様なルーツを持つ社員で溢れる中で、 誰もが頼りにしたくなる労務事務を目指して

フィットネスブランド「VALX」を運営している弊社へ入社したのが2023年1月になります。それまでは他企業で社員として人事部門全般を担当していたのですが、特に社内規定の整備や給与計算などを行う労務管理や事務が適しているかもしれないと感じたんです。以降、労務管理や事務に特化したポジションかつ、心から関心を持てる業界で働くために求人募集を検索するようになりました。

フィットネス業界を選んだ理由としては、ジムでの定期的なトレーニングを始めて健康的な身体を手にした経験が影響しています。始める以前は現在よりも15kgほど痩せていたのですが、その体型がコンプレックスで。人生を変えた「フィットネス」という領域で自分のできることを、向いていることを仕事にしたい気持ちが募り、弊社への入社を決めました。

弊社は、様々なルーツやバックグラウンドを持つ人たちが働いています。もともと多様な人が集まった環境だったからか、私がゲイであることを他社員に周知してからも、セクシュアリティに関して誰からも特別視されることなく働けています。これまで自らのセクシュアリティを隠して働こうと思ったこともなく、聞かれたら話すというスタンスでしたが、入社して1ヶ月ほど経過したとき、代表が執筆するコラムで多様性を取り上げてたため、その点も安心して働ける会社であるという判断材料の一つになりました。

業務に従事するうえでは、全社員に対して物柔らかな対応を大切にしています。「奥さんだったら優しく教えてくれるかも」と頼りにしたくなる存在に憧れがあるので。また全社員が「今日のアウトプット」という日報を投稿する決まりがあるので、定期的に「どんな些細なことでも、分からないことがあればいつでも聞いてくださいね」と発信することで、社員が聞きやすい環境づくりを心がけています。チャットツールではなく、直接私のデスクへ質問をしに来てくれる社員がいると、努力が実ったような気がして嬉しくです。

基本の勤務形態がオフィスワークであることや社員と直接顔を合わせて話をする機会が多いことも、働き方という点において、これまで働いてきた企業と比較してしっくりきていますね。黙々と作業するよりは社員同士の交流が頻繁で刺激を貰える職場が好きなんです。飲み会やランチなど社外交流も盛んで充実した日々を送れています。

ただ、過去に派遣先の企業から「女性ばかりの職場だから男性は馴染めないかも。やめておいた方が良さ」と“派遣社員＝女性”という考え方に晒され、ジェンダーで職業や雇用形態を制限される現実を身をもって思い知らされた経験もあったので、そういった考えが社会全体で薄れていければ良いと思います。



#24

奥光之助 さん

株式会社レバレッジ

職業：労務事務
勤続年数：6ヶ月目
性自認：無回答
セクシュアリティ：無回答

Q.仕事で活かしている長所は？
A.注意や指摘をするときにユーモアを交えてコミュニケーションを図れるところ。相手が笑ってしまうような話し方で伝えることで、シリアスになりすぎないよう心がけています。

言語聴覚士として心が通う瞬間に立ち会うためなら 99%の無反応も乗り越えられます

大学卒業後は一般企業に就職したのですが、業務過多に加えて得意先の接待に誘われては「結婚はいつするの?」「彼氏は?」とシスヘロ女性であることを前提とした会話を強いられる環境が常態化しており、他者に恋愛感情・性的感情を抱かないアロマンティック・アセクシュアルの私にとっては辛かったです。

業務は楽しかったものの、心身ともに限界を感じていたため20代半ばで退職し、言語聴覚士の国家資格取得に向けて専門学校へ入学。最初は短いスパンで取得できそうという理由で目指したのですが、言語聴覚士という仕事が向いていたのか、今の職場で働き始めて5年目を迎えます。小さなお子様からお年寄りの方まで幅広い世代の患者さまと接したいという想いが強いので、多岐に渡る業務を任せてもらえる今の職場は自分にぴったりだと感じています。

「話す・聴く・読む・書く」に加えて、食べる、飲み込む「摂食・嚥下」機能のいずれかに障害を抱える患者さまに対して、言語機能をはじめとした高次脳機能の検査、食べたり飲み込んだりする力の検査をした後、適切なリハビリテーションを通してコミュニケーション障害や、摂食・嚥下障害の改善を促すことが私の主な仕事内容です。

例えば、脳卒中の後遺症で失語症を発症した方には身近なものをイラストで表した「絵カード」などの訓練教材や、会話を通じて言葉の引き出しを開ける訓練をしたり、非言語コミュニケーションが苦手な自閉症や言葉の発達に遅れがあるお子様に対しては、絵や文字を使った教材や、簡単なやりとりのある遊びを通じて、言葉や非言語的コミュニケーションの力を育てる訓練をしています。

コミュニケーションが単方向かつすれ違うことが当たり前環境ではありますが、1%ほどの割合で患者さまと意思が繋がったような瞬間に巡り合えるときがあるんです。今までやりとりを重ねてきた結果が生んだ瞬間なのだと嬉しくもあり、やりがいを感じる時もありますね。自らのセクシュアリティの世間的な認知度が低く無理解に晒されることが怖いのでオープンに働いてはいませんが、性別や年齢関係なく誠実に向き合えばその分だけ返ってくる今の職業に転職して本当に良かったと思っています。

#25

ひじや さん

職業：言語聴覚士
勤続年数：5年目
性自認：無回答
セクシュアリティ：無回答

Q.仕事で活かしている長所は?
A.人の機微に敏感なところ。患者さま一人ひとりに長時間対応できるリハビリテーションの職種として、些細なアイコンタクトなどを見逃さず共有することを心がけています。

持ち前の笑顔を活かして、 配達員やNPO法人での取り組みを続けていきたい

現在は、宅配便事業を展開する企業と業務委託契約を結び、配達の業務に従事しています。この仕事への転職を決めた理由は大きく二つあり、第一に「ありがとう」と直接感謝の言葉をいただける職業に就きたいと欲していたからです。お客様から感謝の言葉や「お疲れ様」と労いの言葉をいただけることが嬉しく、日々自分の存在が人のために役立つ存在なのだ実感できています。第二に、セクシュアリティをオープンにする必要性がない、またオープンにすることを迫られない職場で働きたいという気持ちがあったからです。前職の飲食業で働いていたときに、お客様との会話で自身のセクシュアリティを深掘りされることがあり、その都度ストレスを感じていました。一方、配達の仕事はお客様と関わる時間が一瞬なので、そういった機会に晒されることなく安心して自分らしく働けていると感じています。

ただ、トランスジェンダー男性であることをほんの一部の同僚に公表した際に「重い荷物を持つよ」と気を遣われてしまったことがあります。相手は優しさで声がけて下さっているのは分かるのですが、その言葉を優しさと捉えることが難しく…。トランスジェンダー男性であるがゆえに仕事の範囲を限定されてしまうのは、私自身が理想とする働き方ではないため、全体に対してオープンにすることはしていません。

いかなる場面であっても、セクシュアリティやジェンダー関係なく一人の人間として責任

を持ち、仕事と向き合いたいです。

また、配達員と並行してLGBTQ+当事者による授業や講演会を行うNPO法人に所属しているのですが、その活動では中高生に向けて、トランスジェンダー男性であるがゆえの体験談を通してLGBTQ+について考える機会を創出するための講演を行っています。その中で「明るい未来が必ずある」と皆さんにいつも伝えていきます。私自身、学生時代に性に悩み苦しい経験をしてきたからこそ、一人で頑張らず助けてくれる人が必ずいると信じて欲しいです。これからも自分にできることは何かを模索しながら、NPO法人での活動では、様々な人が自分らしく生きることができるようなきっかけをつくっていきたくと思っています。

#26

竹原楓 さん

職業：配達員
勤続年数：3年目
性自認：男性
セクシュアリティ：
トランスジェンダー 男性

Q.仕事で活かしている長所は?
A.いつも笑顔でいられるところ。お客様と顔を合わせることが一瞬だからこそ第一印象はとても大切だと思っているので、その点は活きているかなと感じています。

自身の経験を子どもたちに還元しながら 音楽を通して夢を伝えていきたい

子どもの頃からクラリネットを演奏するのが好きで、高校は吹奏楽部の強豪校に入学しました。そこで当時指揮していた先生の教えが、性のあり方に悩んでいた私を大きく変えてくれたんです。それまでは学校でも男らしさを求められて、苦しみながら生きていたのですが、その先生は「ステージに立ったら皆平等。君も自分の個性を活かしなさい」と言ってくれて、とても救われました。その先生は私が高校二年生のときに癌で亡くなってしまったのですが、私もその先生のように音楽を続けたいと思い、教師を目指し始めました。

東京の音楽大学を卒業後、夢への第一歩として中学校の臨時講師になったのですが、生徒から「男なの？女なの？どっち？」と言われたときに、自信を持って女だって言えなかったんです。そのときに「私、嘘ついて生きてる」と感じ、そんな先生の授業を聞いてもらえるはずがないと、1年で退職を決断しました。

ですが、やはりありのままの自分で働くことができない環境がおかしいし、いつか自分らしい私で教壇に戻りたいと思っていました。その間、9年ほどアルバイトをしていたのですが、6年目ぐらいの頃に教職員をやっている親友から、「音楽の先生の枠が一つ空くから一緒に働きたい」と声をかけてもらったんです。私が、自身がトランスジェンダーであることを理由に不安がっていると、「もしそ

れを理由に断る人がいたら私が抗議してやるよ」と言ってくれて。生き方も、音楽も、努力し続けていたら誰かが見ていてくれるんだなと救われました。面接時でも当時の校長先生から「あなたらしく頑張ってください」と言ってもらい、その言葉にしっかり応えたいという思いで本校で働き始めました。現在は掛け持ちしていたアルバイトも辞めて、講師に専念しています。

職務は音楽の授業、音楽専攻でクラリネットを選択している生徒たちへの個人レッスンなどです。高校時代、私に救いの言葉をかけてくれた恩師はいつも「全国大会に行きたい」と話していたので、私とその夢を生徒たちと叶える思いでレッスンをしています。なので、教えていた生徒が全国のソロのコンクールなどで入賞したときは、一緒に頑張ってきた良かったと、達成感で心が満たされます。

また、3年前から新入生全員に対して、私がトランスジェンダーであることをオープンにして、多様な性のあり方についての講演をしています。私は女性なので、わざわざトランスジェンダーであることを言う必要はないのですが、学校から講演をオファーされたときに、私の話が少しでも生徒たちのためになるのなら、やってもいいなって思ったんです。身を削ることになるかもしれませんが、私の話を通して何かを頑張り続けることや、夢を持つきっかけになってくれたら嬉しいです。

#27

倉堀翔 さん

学校法人大分高等学校

職業：音楽の非常勤講師
勤続年数：7年目
性自認：女性
セクシュアリティ：
トランスジェンダー 女性

Q.仕事で活かしている長所は？

A.自分のありたい姿で、自分のやりたい仕事をしているところ。自分らしく生きている姿を生徒たちに見てもらうことで、希望を与えられていると思います。

様々なテーマを「自分ごと化」し、 誰もが社会課題に向き合える VR 体験を提供したい

ウェブメディアの運営担当者として働いていた前職での取材で、弊社が運営する高齢者向け住宅「銀木犀」を訪れたことが、今の仕事へ就くことに繋がっています。高齢者住宅でありながら開放的で、地域住民と入居者の交流が自然に行われている点に魅力を感じ、友人を連れて度々プライベートでも訪れるようにもなりました。

その後、社長が新たにVR事業を立ち上げたというイベントに参加しました。自分の中にあった認知症に対する無意識の偏見や誤解に気づかされた衝撃と、常に新しい視点で社会課題に取り組む社長の姿勢に感銘を受け、「ここで働かせてください」と直接思いを伝え、2017年2月に入社しました。

私の仕事は、立ち上がったばかりのVR認知症体験を全国に広げることでした。無我夢中で社長と全国を回りましたが、動けば動くほど、特に行政や医療介護の専門職の方からの反響が大きく、爆発的に広がっていくのが刺激的でした。入社から1年が経った頃、社長から「LGBTQ+をテーマにしたVRを作ってくれないか」と相談されました。認知症とは全く別のテーマなので驚きましたが、「自分とは違うと思うところから誤解や偏見に繋がりがやすい点は、認知症もLGBTQ+の当事者も共通する社会課題があるのではないか」という社長の言葉に共感したんです。社長は私が入社する前からSNSなどで、頻繁に多様な価値観を歓迎する投稿をしていたので、面

接時からキャリア形成などの話とともに自然に自身のセクシュアリティを隠さず話すことができていました。LGBTQ+当事者をテーマに何をつくるか悩みましたが、働くレズビアン当事者の視点に立ち、職場でセクシュアルマイノリティがどんなときに働きづらさを感じているのかをリアルに体験できるものを制作しました。私自身がこれまで複数の職場で感じてきた生きづらさを投影させている部分があります。

他愛のない雑談が、ときにLGBTQ+当事者を悩ませたり、嘘をついている感覚にさいなまれたりすることをVR体験を通じて体感してもらうことで、「悪気なく誰もが当事者を傷つけてしまう可能性がある」「LGBTQ+であるか否かに関わらず働きやすい職場とは何か」を考えるきっかけに繋がったんです。体験者から「まさか涙が出るほど本人に感情移入するとは思わなかった。今までの考え方や価値観が変わる気がする」などと感想をいただけたときは嬉しかったですね。

この制作をきっかけに、体験できるコンテンツテーマを増やし、依頼企業に合わせて組み合わせを変えながらダイバーシティ&インクルージョンの推進のための研修も数多く担当しています。



#28

黒田麻衣子 さん

株式会社シルバークロウド

職業：VRを活用したD&I研修等の企画・講師
勤続年数：7年目
性自認：女性
セクシュアリティ：レズビアン

Q.仕事で活かしている長所は？
A.猪突猛進なところ。やりたいと思ったことは、熱量と行動力を持って押し進められるところが仕事に活かしていると感じます。

小さなチャレンジを積み重ねることが、 誰もが働きやすい環境づくりに繋がると信じています

2014年に製薬会社である協和キリン株式会社に新卒入社しました。現在は営業本部マーケティング部に所属し、パーキンソン病治療薬の製品戦略立案や営業用資材の作成を行っています。

製品に関する情報を収集・整理し、部署と部署を橋渡しする役割を担っているのですが、社内コミュニケーションを深めることが大切なのですが、親切な社員が多いこと、私自身も人と話すことが好きなこともあって、現在は楽しく業務を進めることができています。

セクシュアリティをオープンにする以前は公私ともに仲が良い社員が多いからこそ、同性パートナーの存在を隠すことが辛い時期もありました。しかし、人生の大半を過ごす職場でも自分らしく過ごしたいという思いが募り、オープンにしました。

すると翌日、上司から「私たちが井邊さんのためにできることはありますか？」と声をかけてもらい、「現在の社宅制度ではパートナーと一緒に暮らすことができない」と打ち明けました。その話し合いの後に同性パートナーを婚姻した夫婦と等しく扱う社内制度が2018年から設けられました。結果、家族としてパートナーと社宅で暮らすことが認められ、結婚祝い金も支給されることになりました。現在は妊活でクリニックに行くことが多いですが、柔軟にスケジュール対応しながら働かせてもらい、非常に助けられています。

また2023年は、初めて東京レインボープラ

イドにて労使共催でのブース出展を行いました。LGBTQ+当事者として企画を立案したところ、労働組合や人事部・コーポレートコミュニケーション部、ボランティアの社員など、部署の壁を超えて様々な方に協力いただき、2日間で1500名を超える方々にブースに足を運んでいただくことができました。

このように、会社として言葉だけでなく行動として取り組みが進んだのは、社内におけるLGBTQ+研修による効果が出始めてきたことはもちろん、会社と社員との信頼関係が築けていたことも大きく影響していると思います。当社では人のために動ける社員がたくさんいると感じていて、私もそのような存在であれば嬉しいです。

思えば、新入社員の時に営業として配属された際、女性の先輩に「女性らしく振る舞うことを心がけて仕事をしてみては？」と言われたことに対して「女性らしさではなく自分らしさを発揮したい」と意思を伝えることができたことが、今の自分のあり方に繋がっていると感じています。

LGBTQ+当事者に限らず、過ごしやすい環境に身を置くためには、自ら行動することが大切なきもあるのではないのでしょうか。小さなチャレンジの積み重ねが、その後の人生に大きな変化をもたらすことが多分にあると思います。



#29

井邊亮子 さん

協和キリン株式会社

職業：マーケティング
勤続年数：9年目
性自認：女性
セクシュアリティ：
レズビアン

Q. 仕事で活かしている長所は？
A. 人が好きなところ。部署間の橋渡しを担う職種なので、日々社員とのコミュニケーションを積極的に図るようにしています。公私ともに交流が深い社員も多いです。

価値観を活かせる職場と出会うには、 生きる環境の取捨選択が重要だと思います

以前は2年間フリーランスとして働いており、孤独感を感じることも多くなっていたのですが、そのタイミングで運良く知り合いの紹介を受けて株式会社ニューピースに入社しました。間もなく自社のクリエイティブスタジオ「REING」にて、社会課題にアプローチするクリエイティブ制作に携わるようになりました。生きてきた中で感じてきたジェンダーやセクシュアリティにまつわる課題感に対して、企業とともに発信できるという点に充足感を感じながら、働く楽しさを実感できた期間でもありましたね。

現在は異動しブランドディレクターとして、「ビジョニング」という未来起点のブランディングの考えを軸に、クライアントのオウンドメディア運営や化粧品ブランドのイメージムービー、リーフレットなどの企画を担当しています。半年前に就いたばかりのポジションなのでまだまだ試行錯誤しながら向かっていますが、自分が愛せないものに関わる仕事はしないという信条は守っています。仮に自分の信条に反することがあった場合は、「仕事だから…」と割り切ってお手伝いをするという心掛けをしています。

弊社は「価値観を仕事にする」というミッションを掲げ、そのうえで自分らしくいられる職場環境を大切にしており、多様性を尊重する姿勢があると思います。仕事をするうえで抱いた違和感を伝えると社内制度が見直さ

れたり、知らないことは相手から直接聞いて学び、働く時間・場所の環境を良くしていこうとしたりする姿勢があるんです。

例を挙げると、ある撮影の際にご出演いただいたモデルの方から「ニューピースが委託していた外部スタッフの方から、現場で差別的な発言を受けた」と言われたことがあって。会社として重く受け止めたのと同時に危機感を感じたことから、自分たちの撮影現場を心地良い場にするために「REING POLICY BOOK」というハンドブックの製作に取り組みました。性別や人種など、属性や外見のみで人をカテゴライズするのではなく「個」として尊重するよう促す内容のもので、今はお仕事をご一緒する全ての方へお渡しするようにしています。クライアント業務以外にもこのような問題に直面したとき、ノンバイナリー当事者としての自分の視点を提供でき社会課題の解決に貢献できる可能性が多分にあることも、ニューピースに在籍する理由の一つです。

「個」として受け入れられている今の職場で働いているのは、合わないと思った環境をすぐに脱する決断をしてきたから。仕事に限らず、生きていく環境の取捨選択をしながら過ごすことは、自分が自分であることを受け入れてくれる場所に巡り合うための一つの手段でもあると思います。

#30

Riku さん

株式会社ニューピース

職業：ブランドディレクター
 勤続年数：2年目
 性自認：ノンバイナリー
 セクシュアリティ：
 パンセクシュアル

Q.仕事で活かしている長所は？
 A.真面目なところ。発信する立場としてクライアントワークで携わるモノ・コトをプライベートに落とし込み、自分ごと化することで消費者へ真摯に向き合うようにしています。

FROM Indeed

—— 『BE』第二弾発行に向けた想い

Indeed は、“We help people get jobs.” のミッションのもと、すべての人がその属性や置かれた環境に限らず、自分に合った仕事を得られる社会の実現を目指し、さまざまな取り組みを行っています。

そして 2021 年、LGBTQ+ コミュニティを含めたあらゆるの人々が生き生きと働ける社会に向けて、ダイバーシティのある働き方を推進するプロジェクト「Indeed Rainbow Voice」を開始しました。翌年には、LGBTQ+ 当事者の職場や仕事探しにおけるリアルな課題や困っていること、不安に感じる点、逆によかったことやうれしく感じたこと等を理解し、知ることに向けた第一歩として、LGBTQ+ 当事者のさまざまな「声」を集め、ライフマガジン『BE』を創刊しました。その結果、私たちの期待以上に、企業や教育機関を含め多くの人が『BE』を手にとってくださいました。

一方、採用プロセスや職場における偏見や障壁に直面する LGBTQ+ 当事者は未だ多く存在することも浮き彫りになっています。そこで、2023 年はさらに取り組みを進展させ、LGBTQ+ 当事者だけでなく、支援したいと考える人や雇用する企業などさまざまな人たちの声を集め、それらの声をもとに新しい『BE』を発行することにしました。LGBTQ+ 当事者の人たちが自分らしく働く姿を紹介する『BE WORK GALLERY』、そして、企業の取り組み内容や、取り組むにあたっての課題や工夫をまとめた『BE for WORKPLACE』。この 2 つの『BE』が LGBTQ+ コミュニティの人たちにとって新しい仕事や働き方と出会ったり、自分の新しい可能性を知るきっかけとなったり、そして働く場となる企業と一緒に働く人たちの新たな気づきや取り組みに向けた一歩となったりするように、私たちは願っています。

—— Indeed の取り組み

Indeed はコアバリューの一つとして、“Inclusion&Belonging” を掲げています。Inclusion(インクルージョン)は、誰も取り残さない環境を作ること、Belonging(ビロンギング)は全従業員が組織の中に自分の居場所があると感じられることを指します。Indeed は、この信念を目標として掲げるだけでなく、行動し続けてきました。なぜなら、私たちは多様性がより良い職場を作り、より効果的な意思決定を可能にし、より多くのイノベーションを生み出すと信じているからです。

Indeed ではインクルーシブな職場環境づくりのため、社会保障ではカバーされていないジェンダーやセクシュアリティに関する福利厚生制度や、世界中のレインボープライドへの参加、Glossary of Inclusive language(インクルーシブな表現の用語集)の作成など多様な取り組みを実践しています。また、さまざまな社会的マイノリティのためのビジネス・リソースグループを従業員主導で組織、運営しており、職場での差別や偏見をなくすための活動をしています。そのうちの一つ、「iPride インクルージョングループ」は、社内外で LGBTQ+ コミュニティをサポートするため、日本を含め世界各国でワークショップや講演会を実施するなど、さまざまな取り組みを行なっています。



(画像) TOKYO RAINBOW PRIDE 2023 のパレードに参加している様子